

2017年3月21日

株式会社ネクスグループ

ブロックチェーン技術を活用した勤怠管理サービスの開発および、 ロケーションデータ取得デバイスの開発について

このたび、当社子会社である株式会社カイカ（JASDAQ 上場、証券コード「2315」、本社：東京都目黒区、代表取締役社長：牛 雨、以下、「CAICA」）はブロックチェーン技術を活用したロケーションデータと出退勤時間を結び付けた勤怠管理サービスの開発に着手いたしました。

また、同じく子会社である株式会社ネクス（本社：岩手県花巻市、代表取締役：秋山 司、以下、「ネクス」）では、保有する通信技術・デバイスの優位性を活かしたロケーションデータなどの情報取得のためのデバイス製品の開発を検討してまいります。

国が推し進める「働き方改革」により、各企業においては従業員の勤務時間に関して、より一層の管理が問われている中、フィンテック事業を推進する CAICA においては自社の保有する技術を応用した勤怠管理業務効率化の検討を進めてきました。フィンテック技術の1つであるブロックチェーンは勤怠管理システムの構築を検討する上で既に一定の完成度と信頼性を担保されていると考え、また開発及び運用コストの抑制にも期待できる仕組みであることから、ブロックチェーン技術を応用した勤怠管理システムの開発着手に至りました。

例えば、オフィスの出入口でスマートフォンのアプリをタッチし、入退室を記録します。アプリケーションからブロックチェーンに直接記録することから記録の改竄が困難であり、ブロックチェーンはパブリックブロックチェーンである Ethereum を採用することからインフラ費用の抑制が期待でき、スマートコントラクトが実装可能なことから自律的に稼働するシステムの開発も可能と考えております。

また、ネクスの通信技術により、様々な環境下でのロケーションデータの集積や、その他の情報を利用する事で、様々な業界や多様化するワークスタイルに対応したサービスの提供を目指します。

例えば、使用 PC のロケーション管理により、オフィス内だけの勤怠管理ではなく、出張先や自宅など社外での勤務状況の把握や、正確な勤怠の管理が難しいといわれている運送業界などには、ネクスの車載デバイスを連動させる事で、勤務時間の正確な管理だけではなく、ドライブデータや連続運転時間などの情報を入手することで勤務環境の改善に繋げるなども可能になります。

このように、「改ざんができない」「データが消えない」というブロックチェーンの特徴に着目し、一定の「場所」で働く人々の「出入り」のデータ管理をブロックチェーン上で行い、勤怠、特に残業の管理に焦点を当てたサービスを実施することで、勤怠管理の工数の大幅な削減と、正確な残業時間の把握と支給が可能となります。また、勤怠データと共に取得する様々なデータを分析し、積極的に労働環境の改善をおこなうことは、労働環境に起因する事故やトラブルの低減、退職者の減少など、将来発生するリスクとコストの抑制にもつながります。

将来的には、個々の雇用形態と業務内容をプログラム化し、ロケーションデータなどから業務執行の確認ができれば自動的にその業務への対価が支払われるといったスマートコントラクトを実装することで、人を介さずに管理をおこない、企業の勤怠管理コストを大幅にダウンさせたり、人材派遣業界においても多種多様な雇用形態と業務内容をプログラム化させることで、登録されている派遣社員の管理コストを大幅にダウンさせるなどの可能性もあります。

これからもグループの連携をすることで、より付加価値が高く、ユーザーの利便性を考慮したサービスの提供を目指してまいります。

なお、CAICA が開発する勤怠管理サービスは、本年6月を目途にベータ版を公開する計画です。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ネクスグループ

TEL：03-5766-9870